

内田地区の集落営農の現状と課題

令和5年1月20日（金） 市長と住民の「こんだん会」資料

農事組合法人 内田営農

農事組合法人内田営農の紹介

- 組織の前身

農地改良事業により設立された「内田機械利用組合」

- 設立

平成18年4月15日

- 設立の要因

水田転作助成金の交付要件変更により条件がよくなったため。

農家の意識変化

- 設立当初

個々の農家には、自分の農地は自分で守る気迫があった。

- 現在

農業から離れ、内田営農まかせの雰囲気強い。

- 農家の農業離れが内田営農の借入れ面積に反映

- 設立当初 水田 6.4ヘクタール 畑 2.4ヘクタール

- 現在 水田56.1ヘクタール 畑27.2ヘクタール

- 背景

農業従事者の高齢化、兼業農家の増加（農業よりも会社勤めの方が収入が安定するため）

内田宮農側の事情

- 大型農作業機器を扱うオペレーターの高齢化進んでいる。数年先には半分以下となる。
- オペレーターの随時募集はしているが、募集に応じる人がいない。
- 募集に人が集まらない理由は、年間を通じた仕事がないためか。

地域交流事業

- ブルーベリー（摘み取り）園

- 毎年7月に実施、今年で10年目の取組み

- リピーターも多く、内田地区内だけでなく、市内、塩尻、穂高、遠くは神奈川県から来てくれる方もいる。

- モロコシもぎ取り祭り

- 毎年8月に実施、1日だけの開催だが親子連れなどでにぎわう。

- お菜取祭り

- 馬場家住宅の協賛で行う。地域住民との交流機会を設けている。

今では、楽しみにしていただいて、開催日時問い合わせをいただくこともある。

経営面積

- 水田 50.1ヘクタール（水張面積・実際の耕作面積）

畦畔面積が登記簿面積の約12パーセントあり、畦畔の草刈りが重労働。数年前から遠隔草刈り機を導入し、労力軽減を図っている。

- 畑 27.2ヘクタール

オペレーター人員構成

- 大型農業機器のなどを扱うオペレーターの高齢化が進み、数年後は現在の半分以下になってしまう。

○オペレーター人員構成

30代	2名
40代	3名
50代	1名
60代	8名
70代	9名

○30代から50代は勤めを持ちながらの農作業で土日が主な作業日

○主力は60代、70代で、特に70代後半に集中

- 今後の営農継続に不安を感じる。借り受け農地をお返ししなければならない状況も予想される。

課題と取組状況①

- オペレーターの確保

 - 現在、若手数名に対して、トラクター、コンバインの教育訓練を実施

- 農業資材や燃料の価格高騰

 - 肥料は昨年価格の1.5倍～2倍、免税軽油105/L前後

 - 肥料費については国、県、JAにて支援あり。

 - 営農としては、側条施肥機を導入して無駄の削減に取り組む。

 - 燃料費については機材のecoモード使用により無駄の削減に取り組む。

課題と取組状況②

●スマート農業への取り組み

人手不足、無駄の削減など課題山積であるため、遠隔草刈り機をいち早く導入し、畦畔の草刈りに効果を上げてきた。まだ取り組めるものがないか調査研究していく。

●六次化の取り組み

内田の活性化の引き金になるようなことをしたい。具体案はまだないが、食品加工所などを開設して営農での生産物の加工販売をしたい。アドバイスを頂けたらありがたい。